

東日本大震災とレクイエム・プロジェクト

上田 益

最初にプロジェクトを行った神戸では震災から13年が経過していた。それでもなお心の復興には程遠く、悲しみや苦しみを抱えて生きている人たちがほとんどだった。そのことから考えても、東北ではもっと時間が必要になると思っていたし、まずは基本的な復旧や瓦礫の処理が終わり、被災者の人たちの生活が少しずつ改善され、復興がある程度進まないことには、プロジェクトは無理だと思っていた。更には関西出身の私には、東北で音楽家の知り合いもなく、どこから手をつけたら良いのか、全くわからなかった。

ところが不思議な力に導かれるように一つの扉を開けると、思いもよらないスピードで連鎖し、レクイエム・プロジェクトが東日本大震災の被災地で動き出すことになっていった。ただ、それはあくまで今振り返ってみればの話であり、今もなお手探りの部分があることもまた事実だ。

レクイエム・プロジェクトは、それぞれ土地柄や気質も違う全国7箇所で活動する。だからこそ、被災地の詩人の詩による新しい合唱曲の練習や自由に参加できる各地のコンサートを通して、地域を越えた精神的な繋がりが参加者の間で生まれてきた。それは、それぞれが少しずつ心を開きながら、異なる惨禍とその悲しみや苦しみへの共感、そして思いを共有し合うことで、自然に生まれてきたような気がしている、ありがちな「絆」という言葉や「寄り添う」という言葉とは全く違い、心を一つにするという言葉とも違う。私は意図的にその言葉は使わないし、あえて言えば「心を重ね合う」活動だと思っている。

【東日本大震災の被災地における活動と関連事項の年譜】

2011年	
3月11日	東日本大震災。
3月19日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(兵庫県佐用町:さよう文化情報センター)。
3月24日	ツイッターでの「詩の礫」を被災後連日投稿されていた福島市の詩人・和合亮一さんに初めて電話。プロジェクトの趣旨を伝え、新作のための詩の書き下ろしを依頼し、快諾を得る。
3月25日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(神戸市:神戸新聞松方ホール)。
4月16日	福島市を訪れ和合亮一さんと書き下ろしの詩に関する打合せ。原発事故の影響で市中は閑散。
4月下旬	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲の初演などを行うコンサートの準備に入る。
5月中旬	前年より打診していたブラハでの拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」レコーディングに関する打合せなどを兼ねて、ブラハに滞在。ブラハフィル関係者との面談と意見交換を行い、レコーディング終了後に、東日本大震災追悼チャリティーコンサート開催の可否などを相談。
6月下旬	渥美公秀・大阪大学教授から岩手県野田村でのレクイエム・プロジェクトの実施依頼がある。
7月3日	東京藝術大学音楽学部学生有志によるチャリティーコンサート(晴海トリトンスクエア2F グランドロビー)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。
7月5日	震災後まだ4ヶ月ほどしか経っていない北部沿岸部の岩手県九戸郡野田村を訪問。現地で復興支援に取り組む大阪大学の渥美教授とともに、現地の女声合唱団「コールわさらび」の大澤和子代表と面会し、プロジェクトの説明を行う。また、津波で流された練習用の電子ピアノを贈呈することになるが、現地や近隣の被害の大きさを見て、プロジェクトの実施にはまだまだ時期尚早という印象を強く持つ。当面は現地に在住する詩人などとの交流を先に始めようとする。
7月中旬	和合亮一さんから新作組曲のための詩を受け取り、作曲を開始。
8月9日	カワイ出版が5月11日にスタートさせた合唱曲による被災地支援「歌おうNIPPON」プロジェクトに、レクイエム・プロジェクト 佐用町2011コンサートでお披露目する拙作「大切なふるさと」を提供し、アップロードされる。
8月28日	レクイエム・プロジェクト 佐用町2011コンサート。野田村の合唱団に電子ピアノを贈呈する義援金募集を併せて行う。
8月31日	野田村を訪れ、合唱団「コールわさらび」の皆さんに電子ピアノを贈呈。以後、時間を置く。
9月27日	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲のうち、先行して作曲していた終曲「生きる」を、カワイ出版の「歌おうNIPPON」プロジェクトに提供。10月6日にアップロードされる。以後、順次作曲が完成し、プロの音楽家と東京藝大の音楽専攻生による合唱団の練習が10月から始まる。
10月29日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2011コンサート開催(TOKYO FM ホールにおいて昼夜2回公演)。公演では和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲「黙礼」初演や、ご本人によるその詩の朗読などにより構成。今年は、「黙礼」初演から10年となる。このコンサートに先立つ10月中旬には、福島県南相馬の「ゆめはっと合唱団」メンバーの方から電話があり、津波で多くのメンバーを失った合唱団として、是非とも自分たちの合唱団でも演奏したいとお申し出だった。東京での「黙礼」初演の記事が福島の新報に掲載され、その記事を読んだ電話だった。それがきっかけとなり、翌2012年に「ゆめはっと合唱団」の第5回定期演奏会で「黙礼」の南相馬初演が実現。

2012年	
1月9日	陸前高田、大船渡を訪れる。合唱団「けせん第九を歌う会」の指揮者の千葉久美子さんと初めてお目にかかり、レクイエム・プロジェクトに関してお話しさせていただいた。
1月15日	拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」が全音楽譜出版社から刊行。
3月11日	震災からちょうど1年となる日、レクイエム・プロジェクトに参加していた声楽家・石塚幹信さんの地元・札幌で、東日本大震災チャリティコンサートを開催(札幌時計台ホール)。
3月16日	和合亮一さんの呼びかけにより開催された「レクイエムをあなたと、雲と光のコンサート」(福島テルサFT ホール)において、拙作「黙礼」「レクイエム」の演奏、和合亮一さんとの対談を行う。このコンサートには阪神・淡路大震災の被災者でもあるレクイエム・プロジェクト神戸の合唱団員有志と、レクイエム・プロジェクト東京の活動に関わる声楽家および合唱団員有志が参加。
4月1日	チェコのプラハにおいて3月29日から31日まで、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」のCDレコーディングをプラハフィルおよび現地合唱団、そして日本からのソリスト4人で行う。そのレコーディングに参加したメンバーに、神戸と東京のレクイエム・プロジェクトに参加する合唱団メンバー有志が日本から参加し、東日本大震災追悼チャリティコンサートを、在チェコ日本国大使館の後援を得て開催(ドヴォルザークホール)。来場者からの義援金は帰国後、岩手・宮城・福島の3県の義援金窓口に送金。
4月10日	ヴァイオリンドクターの中澤宗幸氏が発案者となり、被災地で生まれ育ちながら津波で流され瓦礫と化した木材を材料にして制作されたヴァイオリン(震災ヴァイオリン)の演奏を、千人を目標につないでいくプロジェクト「千の音色でつなぐ絆」。そのプロジェクトのために「Triste」「夜明け」の2曲を作曲し提供。レコーディングが、若手ヴァイオリニストのホープ、岡本誠司さん(当時高校3年)のヴァイオリンと金山千春さんのピアノで行われた。この楽曲は4月23日に、TV番組の「朝ズバ」でも、岡本さんの生演奏で紹介され、以後そのヴァイオリンプロジェクトに参加する方たちにより演奏されている。
6月17日	活動3年目を迎えたレクイエム・プロジェクト沖縄のコンサートを、オーケストラとともに開催(てだこホール)。オーケストラのメンバーの1人で、福島原発事故の影響から子供を守るため、沖縄に避難していた仙台のヴァイオリン奏者から、「是非とも東北でプロジェクトを行ってほしい」と、仙台フィルのヴァイオリン奏者・大友靖雅さんを紹介される。
6月20日	前年に野田村を訪れ、電子ピアノを贈呈した合唱団「コールわさらび」代表の大澤和子さんから手紙が届く。6月18日にご縁があって東京の多摩交響楽団とのコンサートで歌う機会を得て、その中で拙作「大切なふるさと」を歌ったこと。その歌をとて気に入り、また地元でも歌うこと、機会があれば会いたいと思っていることなどが書かれ、楽曲を通して少し身近な存在となれたことを知る。その手紙を読んだ後、電話をして改めてまた野田村に行くことを告げ、地元で創作している詩人を探し始め、宇部京子さんに会うことになる。それ以来、宇部さんとの作品は14曲。そして同じ日に、声楽家で岩手大学教授、盛岡カンタータフェライン指揮者の佐々木正利さんから直接電話をいただく。拙作レクイエムやレクイエム・プロジェクトにも興味を持ってくださっているとのことで、急遽24日に山梨大学で開催される日本音楽表現学会でのパネラーの一人として参加することになる。テーマは「震災と音楽表現」。阪神・淡路大震災をきっかけに始めたレクイエム・プロジェクトについて語ることに。さらに後日、日本音楽表現学会の論文集「音楽表現学のフィールド2」(東京堂出版刊)にレクイエム・プロジェクトに関する論文を寄稿することになる。
8月下旬	沖縄で紹介いただいた仙台フィルの大友さんと面会。前向きな話となる中で、同じ仙台フィルでインスペクターをしている我妻さんもご紹介いただき、プロジェクトの実現の可能性が見え始める。
9月下旬	野田村出身で久慈市在住の詩人・宇部京子さんに初めてコンタクトを取り、作品や資料を送付。
10月3日	約1年ぶりに野田村を訪れ、宇部京子さんにお目にかかるとともに、「コールわさらび」の練習にもお邪魔し、岩手県北部沿岸部の人たちとの交流が始まる。プロジェクトに関してはしばらく保留のまま、宇部京子さんの詩による作品を少しずつ作曲し、その楽曲を持って定期的に「コールわさらび」の練習指導にお邪魔することとなる。
10月5日	混声合唱組曲「黙礼」(詩:和合亮一)がカワイ出版から刊行。
11月18日	ゆめはっと合唱団第5回定期演奏会(南相馬市民文化会館 大ホール)において、拙作混声合唱組曲「黙礼」が演奏される。これがきっかけとなり、レクイエム・プロジェクト南相馬へとつながっていくことになる。
11月20日	仙台フィルの大友さん、我妻さんとともに、仙台でのプロジェクトの指導や実行委員長をお願いする工藤三郎さんと面会。プロジェクトの動きが一気に具体化していく。
12月23日	岩手大学教授の佐々木正利さんとのご縁で、同大学合唱団第59回定期演奏会(盛岡市民文化ホール)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。
2013年	
2月中旬	仙台での合唱団員募集を始める。募集記事が河北新報などに掲載される。
4月7日	「レクイエム・プロジェクト仙台」の合唱団練習がスタート。以後、通年のプロジェクトとして毎月2回～3回の練習を現在まで続け、上田自らも月に1度の指導を行なっている。
5月13日	前年に続き、陸前高田と大船渡へ2度目の訪問。メンバーを多数津波で失った「高田合唱団」の指導者で指揮者の伊藤祥子さんに初めてお目にかかる。高田合唱団は、2012年に出版されたばかりの拙作「レクイエム」を、おそらく最初に被災地で演奏した団体。そして、前年もお目にかかった「けせん第九を歌う会」の千葉久美子さんとも再会。2013年11月16日に初めて開催する、仙台でのコンサートへの参加検討などをお伝えした。
6月2日	<想>と題された「けせん第九を歌う会in大船渡」のコンサートで、拙作「黙礼」から3曲が抜粋演奏される。
7月18日	相馬地域の各合唱団の代表などを対象とした「レクイエム・プロジェクト説明会」を南相馬において実施。前年に「黙礼」を演奏した団体を中心となり、合唱団員の募集を始める。
7月25日	女声合唱組曲「黙礼」がカワイ出版から刊行。
9月15日	「レクイエム・プロジェクト南相馬」の合唱団練習がスタート。以後、震災から3年を迎える2014年に向けて月2回程度の練習を継続。

11月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2013コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。和合亮一さんをゲストに迎えた仙台で初のコンサート。「黙礼」「レクイエム」のほか、宇部京子さんとの「とうさんの海」の仙台初演を行う。東京と神戸のプロジェクト合唱団有志、けせん第九を歌う会、高田合唱団の有志も参加。コンサートの模様は、河北新報や朝日新聞、読売新聞などに掲載された。
12月16日	野田村の合唱団「コールわさらび」との交流が元になり、いよいよ「レクイエム・プロジェクト北いわて」の活動が始まる。久慈市からの参加者なども受け入れ、まずは震災から3年となる2014年を目指すことに。
2014年	
4月6日	レクイエム・プロジェクト南相馬2014 コンサート開催(南相馬市民文化会館)。仙台、東京、神戸、広島でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。その他、飯野混声合唱団(福島市)も参加。南相馬では、このコンサートまでの期間限定となったが、同年秋に開催する仙台およびウィーン公演に参加を希望するメンバーのみ練習を継続。コンサートに関して、NHK ラジオ、福島民報、福島民友の各紙に掲載。
7月27日	レクイエム・プロジェクト北いわて2014コンサート開催(野田村体育館)。仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。これ以後、北いわての活動は拠点を久慈市に移し、現在も継続した活動を行う。コンサートはデーリー東北、岩手日報、および神戸新聞や読売新聞の兵庫版にも取り上げられた。
9月21日	レクイエム・プロジェクト仙台2014コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。前年の県外参加者に加え、南相馬でプロジェクトに参加していたメンバー有志、飯野混声合唱団も参加。この年、仙台のケーブルテレビジョンが丁寧に活動とコンサートを取材し、現在もアーカイブで視聴可能。またミヤギテレビのニュース番組でも紹介された。
10月11日	震災犠牲者の追悼と、被災地支援の感謝を込め、ウィーンの聖シュテファン大聖堂公式コンサートとして、レクイエム・プロジェクトのコンサートを開催。仙台、南相馬のメンバー有志のほか仙台フィルのメンバー有志も現地のプロ・オーケストラに加わり、その他全国各地でプロジェクトの活動を行う合唱団有志、ソリストなど総勢158人が日本から参加して開催。大成功となったこのコンサートは、河北新報でも記事として取り上げられた。
2015年	
1月中旬	大阪大学の稲場圭信教授から、気仙沼でのレクイエム・プロジェクト実施の依頼がある。巨大絵画で被災地を描く活動をしている画家・加川広重さんなど、諸分野の人たちとのコラボレーションということで、単発の短い活動となることを前提に準備開始。
3月10日	「けせん第九を歌う会」が報道ステーション(テレビ朝日系列)に出演し、震災から4年を迎えるにあたってのインタビューのほか、拙作「黙礼」から抜粋で2曲目「風」を生演奏で歌う。
4月中旬	日本と同じ震災国であるイタリアにおける、レクイエム・プロジェクトとしての演奏計画打合せが始まる。
7月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2015コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。2013年のコンサートの際に、和合亮一さんからレクイエム・プロジェクトの合唱作品を前提とした新作詩の書き下ろし提案があり、その詩による新作初演を含む内容となる。新作の作品は、混声および女声の楽譜2種類がすでにカワイ出版から刊行されている。組曲のタイトルは「光と木の影に」。
8月6日	レクイエム・プロジェクト気仙沼2015コンサート開催(気仙沼市民会館)。
9月6日	レクイエム・プロジェクト北いわて2015コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動拠点を久慈市に移してからの初めてのコンサートで、北いわてとしては2回目のコンサート。
2016年	
3月	この年から「けせん第九を歌う会」主催の追悼演奏会に仙台などの合唱団員有志が参加。15日には詩人・宇部京子さんとの作品7曲が、女声(児童)合唱のための「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～」として全音楽譜出版社から刊行。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2016コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動開始から約3年となり、仙台とともにプロジェクトに参加する人数も増えて充実した活動が継続されていることから、この地域では初めてオーケストラおよび声楽ソリストとのコンサートを実施。
9月16日～25日	日本と同様、大きな地震が多発するイタリアで、被災地同士の交流を図るため、「レクイエム・プロジェクト バチカン・イタリア 特別公演～東日本大震災から5年、復興祈念・平和への祈り～」を実施。バチカン教皇庁から特別に許可され、「サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏」「システィナ礼拝堂での献唱」(以上2箇所はバチカン)、「聖フランチェスコ聖堂でのコンサート」(アッシジ)、「サンタ・トリニータ教会でのコンサート」(フィレンツェ)の4つの演奏を行なった。全参加者は101人、東日本大震災被災地からは25人が仙台から参加した。また聖フランチェスコ聖堂で世界初演した「ミサ・プレヴィス～平安への祈り～」は、初演に先立ちフランシスコ教皇に楽曲を献呈する栄誉をバチカン教皇庁から与えられた。
10月9日	レクイエム・プロジェクト仙台2016コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
2017年	
7月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2017コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。ローマ教皇への献呈曲などを演奏。
2018年	
3月3日	レクイエム・プロジェクト仙台の活動が5周年を迎えるこの年から、ホール以外の場所での演奏と同じ地域の被災者の方々との交流を目的としたミニコンサートを始める。3日は「せんだい3.11メモリアル交流館」で、7日は復興住宅「あすと長町 第二市営住宅集会所」において、仙台メンバー有志とともにミニコンサートを開催。
7月16日	レクイエム・プロジェクト北いわて2018コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動5周年を迎え、この年もオーケストラとともに実施。
8月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2018コンサート開催(東北大学百周年記念会館 川内萩ホール)。活動5周年を迎えたコンサート。
9月15日	北いわてのプロジェクトで取り組んできた地元の詩人・宇部京子さんとの作品第2集が、女声合唱作品集「風のように～三陸鉄道にのって～(全6曲)」として、全音楽譜出版社から刊行。

9月17日	朝日新聞岩手版において、レクイエムプロジェクト北いわての活動やメンバーの震災当時の話などが「3.11 その時 そして」の中で全16回の連載記事として掲載開始。
11月10日	朝日新聞の首都圏から以北全地域で、「歌い上げる、鎮魂と希望 岩手・北三陸で続く合唱プロジェクト 東日本大震災8年目」と題された、レクイエム・プロジェクト北いわてに関する大きな記事が掲載。
2019年	
3月2日	前年より始めた復興住宅でのミニコンサートを、この日は「あすと長町 市営住宅集会所」で、6日には「あすと長町 第二市営住宅集会所」で、仙台プロジェクトの合唱団有志と共に開催。
3月23日	これまで三陸鉄道は南リアス線、北リアス線をJR山田線が繋ぐ形で運行していたが、悲願とも言うべき三陸鉄道リアス線としての一貫運行が開始。この記念式典には北いわてプロジェクトの合唱団員と、釜石出身の東京団員、およびレクイエムプロジェクトの代表と副代表が列席。詩人・宇部京子さんとの作品「三陸鉄道が行く」「走れ！三陸鉄道」を、宮古市、釜石市の高校生たちと共に合唱し、花を添えた。
4月1日	久慈市では、震災の記憶を次世代の子どもたちに繋ぐ取り組みの一つとして、市立の小学校、中学校全校に、レクイエム・プロジェクトで生まれた合唱作品の楽譜「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～(全7曲)」と「風のように～三陸鉄道にのって～」の2冊の楽譜(いずれも作詩・宇部京子、作曲・上田益)を配布し、音楽教育での活用を決定。
5月26日	三陸鉄道リアス線誕生記念「走れ！三陸鉄道 ミニコンサート」(久慈市アンバーホール・大ホール)開催。それに先立ち、前日26日には全国7地域でレクイエム・プロジェクトの活動を行う合唱団員有志約70人が三陸鉄道2両を貸し切り、南の「盛」駅から北の「久慈」駅まで163km全線を移動し、被災地の現状を自らの目に焼き付けた。
6月19日	震災から10年を迎える2021年に仙台で初演し発信する混声合唱組曲の詩を、被災地の取材を長年続けてこられたローカルジャーナリスト・寺島英弥さんに依頼。
8月25日	レクイエム・プロジェクト仙台2019コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
9月9日	寺島英弥さんから、新作合唱曲のための詩4編の初稿を受け取る。以後、最終稿に向けてプレストを行う。
10月18日～ 27日	レクイエム・プロジェクト ポーランド特別公演を実施。ソリスト含め全国で活動するレクイエム・プロジェクト関係者のうち、北いわて及び仙台からの33人を含む132人が参加。シフィドニツァ・平和教会、聖カタリーナ教会(クラコフ)、聖マリア教会(クラコフ)、聖十字架教会(ワルシャワ)、ワルシャワ大学における演奏に参加。
2020年	
3月11日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響も広がりつつある中、無事に開催。
7月上旬	コロナ禍により、活動を3月後半から6月下旬まで各地とも休止。7月から活動を再開。震災から10年の年に向けた寺島英弥さん詩による新作合唱組曲の練習が、順次始まる。
12月5日	レクイエム・プロジェクト仙台2020コンサート開催(カトリック 元寺小路教会聖堂)。コンサートは8月開催予定だったものを、内容など大幅な変更を行い、日程も変更、感染防止対策を十分に行った上で実施。更には特別なご招待者を除き、無観客で開催。ライブ配信を行った。
2021年 震災から10年	
2月中旬	寺島英弥さん詩による新作合唱組曲全4曲の作曲を終える。時期をほぼ同じくして、宇部京子さん詩による新作「空から」の作曲も終え、仙台はもちろんのこと、全国の活動各地での新作に取り組む練習が本格化していく。
3月10日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響により実施は不可能に思えたが、震災から10年を迎える大きな節目となる年であることと、年に一度のこのミニコンサートを楽しみにしてくださっている高齢の被災者の方々の願いもあり、従来よりも演奏人数の縮小や感染防止への配慮を十分行いつつ実施。
5月23日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2021開催。当初は5月4日開催予定であったが、緊急事態宣言下での無観客開催要請が発令され延期。紀尾井ホールに、仙台プロジェクトの指導者で指揮者の工藤欣三郎さん、ピアニストの菅原紀子さん、声楽ソリストの小野綾子さんが参加。仙台で初演する寺島英弥さん詩による新作混声合唱組曲から、第3曲「また逢える」を部分初演。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2021コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。
9月11日	レクイエム・プロジェクト仙台2021コンサート開催(多賀城市文化センター・大ホール)。混声合唱組曲「また逢える」初演
9月15日	寺島英弥・作詩、混声合唱組曲「また逢える」、全音楽譜出版社から刊行
2022年	
3月9日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。2023年3月8日、8月30日にも開催
12月3日	レクイエム・プロジェクト仙台 2022コンサート開催(元寺小路教会)
2023年	
7月16日	活動10周年記念レクイエム・プロジェクト いわて2023コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)
9月24日	活動10周年記念レクイエム・プロジェクト 仙台 2023コンサート開催(電力ホール)

◆記録(東日本大震災被災地での活動に対する助成、報道)

<助成>●宮城県 文化芸術の力による心の復興支援(2016年から5年連続) ●(公財)宮城県文化振興財団 ●仙台市市民文化事業団
 <報道>●朝日新聞 ●読売新聞 ●河北新報 ●福島民報社 ●福島民友新聞 ●岩手日報 ●デーリー東北 ●NHK仙台放送局
 ●ミヤギテレビ ●CAT-V 仙台ケーブルテレビ

[illegible]


REQUIEM PROJECT

東日本大震災から 14 年 なつかしい未来へ！

レクイエム・プロジェクト仙台 2025

※震災発生後、書き下ろし詩による追悼合唱曲集「第2弾『なつかしい未来へ』(全4曲) 初演！





指揮 佐々木 友子



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希



ピアノ 中村 由希

主 催 レクイエム・プロジェクト実行委員会、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会
 後 援 宮城県、仙台市、宮城県福祉社、宮城県合唱連盟
 特別協賛 (株)ケーエスシー

2025 年

4/13 (日)

午後2時30分 開演(午後2時 開場)

会 場 日立システムズホール仙台
 エントランスホール
 入場料：前売 1,000 円 (当日 1,500 円)
 ※小学生半額(ただし小中学生は入場できません)

◆プログラム

合唱曲集「なつかしい未来へ」

◆ピアノ：菅原聖子、上田 悠、堀内由紀子、西井本友妃

◆合 唱：レクイエム・プロジェクト仙台合唱団、宮城県青年シンセート合唱団有志会、東京・神戸・札幌で活動するレクイエム・プロジェクト合唱団有志会

◆特別出演：仙台市立長町中学校合唱部、仙台市立五中中学校合唱部

多賀城創建 1300 年からひろがる 音楽の架け橋

レクイエム・プロジェクト仙台 2025 in 多賀城 特別コンサート

多賀城市民会館 深谷晃雄

多賀城市民歌
指揮 阿部正幸

多賀市長のピアノ演奏で、ご来場の花きまもぐ一緒に多賀城市民歌を歌いましょう！

2026年、東日本大震災から19年を迎えます。ふもとへの思いと、あの日への思いを込めて。

主催 レクイエム・プロジェクト実行委員会
共催 多賀城市、多賀城市教育委員会、多賀城市文化センター指定管理者
後援 宮城県合唱連盟
特別協賛（株）ケーエスシー

2025年

3.9 sun

多賀城市民会館・小ホール

(多賀城市文化センター内)

開演：午後 1 時 30 分 (開場：午後 1 時)
入場料：前売 1,000 円 (当日 1,500 円)
チケットは、多賀城合唱団員もしくは多賀城市文化センターで
お求め下さい。
※多賀城市文化センターチケットお取扱い時間
15:00～19:00 (月曜休診)
※お問い合わせ：080-3101-6002 (レクイエム・プロジェクト本部)

◆出演

特別演出 多賀城市公民館ピアノ班長：多賀城市民 深谷晃雄
指揮 声楽指導者：上田 隆、阿部正幸
ピアノ：土井 謙、奥津本友紀
◆多賀城特別コンサート合唱団
レクイエム・プロジェクト合唱団合唱指導者
◆プログラム
作曲：多賀城市民歌 (演奏：レクイエム・プロジェクト
代表で特命演奏の上田隆です。楽譜は是非聴いてほしいと願っています)。
◆さくらんぼの輪 (詩：宇野浩吉)
◆雪の子守唄 (詩：宇野浩吉)
◆さくら (詩：宇野浩吉)
◆レクイエムのうたを、あなたに伝えたい〜から臨終まで
◆友好都市 太平洋戦争との和解の歌
太平洋戦争中少女兵隊の合唱 (合唱団員 荒木達磨)
◆大旗なるとよ
◆誰が母の故郷のアリアドネで、ご来場の花きまもぐ一緒に
多賀城市民歌を歌いましょう！
※季節の情報はごさいていただきます。申込は必要ありません。

2025年

レクイエム・プロジェクト仙台での
コンサートの記録

2013～2023



2013



2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023